

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-223-7236

年度	平成30年度		
施設名	新潟市児童センター	所管部・課	中央区健康福祉課
施設の設置目的	児童センターは児童に健全な遊びを与え、児童の健康及び体力の増進を図り、情操を豊かにすることにより、児童の健全育成に資することを目的とする施設です。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H30.6.22
歳入	1,862	正職員		修正日	
歳出	2,512	非常勤	5	評価日	R1.6.28

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標					H30結果
1	市民	児童・乳幼児と保護者の来館者数の増加	1日平均来館者82人以上(単位:人)	88.5	79.6	76.9	82	71.3	過去3年間の平均値相当の目標を設定した	子育て支援の事業や活動の充実日々、月々、年間の統計	乳幼児親子の来館者数の減少が続いている。身近なところに子育て支援センターが開設したことや駐車場がないなどが起因していると思われる。今後も活動の充実に努めていく	C:未達成
2	市民	申込制イベントの参加率の増加	申込制事業参加率73%以上のイベントが8割(単位:%)	—	62.5	69.4	73	76.5	昨年度の実績より5%増の目標値を設定した	来館者への積極的な声掛け 近隣小学校への働きかけ	昨年度より7ポイント以上増加した。市報やガイドの配付、職員の声掛けなどのPRの効果が出ていると考える。今後子どもメニューに応じたイベントの開催に努めていく	A:達成(優)
3	市民	新規・継続使用団体の確保	年19団体以上(単位:団体)	18	20	17	19	22	過去3年間の平均値相当の目標を設定した	小学校の教育活動への提案や園外保育へのPR	小学校長会理事会や公私立保育園長会において、団体利用のPRを行った。今後も、校外学習や園外保育の利用についてPRしていく	A:達成(優)
4	市民	来館者の満足度	アンケートによる児童センター満足度「とても満足」73%以上(単位:%)	74.7	80.0	65.6	73	80.0	過去3年間の平均値相当の目標を設定した	来館者対象の政策改革本部の利用者アンケート実施	「とても満足」の数値が目標値を7ポイント上回った。「おむね満足」を含めると、99%に達している。引き続き、利用者の満足に努めていく	A:達成(優)
5	市民	利用促進のための広報の充実	職員による訪問PRを12回以上(単位:回)	6	12	11	12	14	乳幼児の来館者数やイベント参加人数の減少傾向から、広報活動に積極的に取り組むための目標とした	市内子育て支援施設等へ訪問広報活動 小学校生活科や園外保育受入のPR	「ゆりかご学級」や小学校長会、保育園長会においての広報活動に努めた。小学校のガイド家庭数配付の学校を拡大した。今後は、幼稚園へのPRも行っていく	B:達成
6	業務	災害及び、事件・事故発生時の対応強化による安全安心の確保	万代市民会館全体で行う避難訓練に職員・来館者8人以上参加(単位:人)	5	3	3	8	6		勤務時間やイベントなどの調整 来館者が協力しやすい体制づくりや働きかけ	参加の働きかけをしたが、避難訓練が平日の午前中のため、参加者が0~2歳までの乳幼児となつてしまい、訓練参加が得られにくい実態がある	C:未達成
7	業務	学生ボランティアの確保	年間86人以上(単位:人)	74	96	89	86	116	過去3年間の平均値相当の目標を設定した	ボランティア登録制度 大学のボランティア担当窓口への働きかけ	「遊びフェスティバル」や「豆まき会」などの大きなイベントにおいての学生のボランティアの協力を多く得ることができた。今後も大学や専門学校へ積極的に働きかけていく	A:達成(優)
8	人材	地域組織活動グループとの連携	連携事業参加人数平均23人以上(単位:人)	23.7	22.6	22.7	23	23	過去3年間の平均値相当の目標を設定した	連携強化のための相談や話し合い すみ分けや役割分担明確化による事業の充実	地域組織活動グループとの連携が円滑に進められ、計画どおりに活動が行われた。参加者が多い事業と少ない事業があるが、いずれも活動が充実している	B:達成
9	人材	職員の自己改革や意識改革	研修会等へ職員の参加(平均1人1回 計10回以上)(単位:回)	9	9	16	10	13	研修の機会の減少や出張しにくい体制であるが、過去3年間の平均値相当の目標値を設定した	研修会への積極的な参加 自主研修の奨励	職員が希望の研修会に参加することができ、事業等に効果的に生かすことができた。今後さらに努めていく	B:達成
10												

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>運営課題と向き合い、自らの資質・指導力の向上に努めるとともに、地域組織活動グループや小学校、他施設と連携し、来館者の確保や事業の充実に努めます。また、日々の施設遊具の点検や遊びの見守りを確実に行い、安心安全で健全な遊びの場を子どもたちに提供します。</p> <p>「施設の広さや活動の充実度」「遊具の種類の豊富さ」「遊びの多様性」「一人一人とかわりながら具体的なアドバイスに努める職員の対応」「イベント参加時の楽しさ」等に加えて、「年齢差や学校枠を超えてかわり交流できる児童センターの良さ」を味わってもらえるように、日々、一人一人に応じた言葉かけをし、心のこもった丁寧な対応に努めます。</p>	<p>平成30年度の1日平均来館者数は、29年度よりも約5人少なく、平日の乳幼児親子の減少、水曜日の乳幼児対象のイベントの参加者数の減少が大きかった一方、小学校児童の来館者数の減少がゆるやかであったこと及び下半期の月の利用者が増加傾向にあったことから、小学校のガイド配付範囲を拡大した効果が出たものと考えます。</p> <p>乳幼児親子減少の要因は、「各区分子育て支援センターの充実」「プレ入園の拡大」「母親の就業機会の増加」等と推定しています。</p> <p>令和元年度は、保育園や小学校はもちろん幼稚園などこれまで以上にPRに努め、他の施設にはない児童センターのよさや持ち味を積極的に発信するとともに、市民や乳幼児・児童に広く知ってもらえるよう取り組んでいきます。</p> <p>特に「小規模の子育て支援センターにはない、存分に体を動かしたり自転車に乗ったりできる施設であること」「職員の親身になったかわりや相談」や「いろいろな遊び道具を使った友だちとのかわり」「天候を気にせずに遊べること」などを積極的に伝えていきます。</p> <p>交付金が各区ごとの管理となったことに伴い、多くの遊具や表示、パンフレットをリニューアルしたことで、利用者や関係機関から好評を受けました。</p>